

2014 年 12 月

プレスリリース

常磐線東京駅乗り入れ記念

絵画と写真で巡る大鉄道展

Railway Exhibition -Paintings and Photographs-

2015 年 3 月 7 日(土)～ 5 月 24 日(日)



長谷川利行「赤い汽罐車庫」1928 年 鉄道博物館蔵

公益財団法人 日動美術財団

笠間日動美術館

茨城県笠間市笠間 978-4

Tel 0296-72-2160 / Fax 0296-72-5655

URL <http://www.nichido-museum.or.jp>

拝啓

師走の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご厚誼にあずかり厚く御礼申し上げます。
2015年3月14日「上野東京ライン」が開業し、沿線住民の長年の夢であった常磐線の東京駅への乗り入れが実現します。これに際し笠間日動美術館では、下記の通り「常磐線東京駅乗り入れ記念 絵画と写真で巡る大鉄道展」を開催することになりました。つきましては多くの方々にご来館いただきたく、ご取材・ご紹介などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

■開催趣旨

19世紀初頭に実用化された蒸気機関車による鉄道は、日本では明治初期に走り出しました。150年近く経った現在、鉄道網は日本の隅々まで広がり車体も飛躍的に進化しています。鉄道は私たちにとって無くてはならない生活の一部であり、また憩いをもたらしてくれる乗り物と言えるでしょう。

鉄道は様々な美術作品にも登場し、私たちを楽しませてくれます。蒸気機関車を描いた錦絵は明治日本の近代化を伝え、絵画には画家それぞれの鉄道への思いを見ることができます。またカメラがとらえた故郷の駅舎は遠い日の記憶を呼び起こしてくれます。

この度は、常磐線の東京駅乗り入れを記念し、鉄道博物館および東京ステーションギャラリーにご協力をいただき、明治から現代までの油彩画や水彩画、錦絵、資料などに加え人気鉄道写真家・中井精也の作品を、3章に分けてご覧いただきます。鉄道は単なる移動手段や貨物の運搬という役割を超えて、様々な分岐をはさみながら夢を繋いでいます。ご来館の皆様がそれぞれ記憶のレールをたどり、また鉄道の未来をご想像いただけましたら幸いです。

■おもな出品作家

勝 海舟／歌川広重三代／小林清親／五姓田義松／伊東深水／岡田三郎助／石井柏亭／鍋井克之／長谷川利行
長谷川三千春／森 惣介／石川滋彦／井上 悟／佐々木信平／相笠昌義／藪野 健／池口史子／小杉小二郎
遠藤彰子／渡邊榮一／松井ヨシアキ／久保木 彦／金森宰司／笥 本生／木津文哉／開 光市／齋 正機／齋藤 将
小木曾誠／柏本龍太

■展覧会構成

I-1 鉄道今昔物語 下記日程の通り展示替えがあります。

March 3/7-29 文明開化から昭和まで日本鉄道史を顧みる

鉄道の歴史を顧みる試みとして、鉄道と時を同じくして台頭してきた明治洋画と石版画を展示いたします。五姓田義松の油彩画「駿河湾風景」、そして単色刷りの中に部分的な手彩色が際立ち、錦絵と異なる魅力を持つ石版画の世界を是非ご堪能ください。また、全国の駅舎を描き続けた国鉄職員、森惣介の水彩作品と共に昭和後期の東京駅から高萩駅までを訪ねます。懐かしい景観を思い出しながら、駅舎建築の妙味をお楽しみください。

April 4/1-30 最後の浮世絵師 小林清親と鉄道七十年記念事業

「最後の浮世絵師」と呼ばれ、光線画の生みの親である小林清親は、文明開化によって近代化していく東京を、光の細微な加減によって、どこか江戸の匂いが残るノスタルジックな画面に捉えました。

また1942年、鉄道が開業70年を迎えその記念事業として、伊東深水は《鉄道七十年の今昔「七十年前の新橋駅」》を描きました。鉄道の走り出した時代と、鉄道が生活の一部となった時代をコラボレーションでご紹介します。

May 5/1-24 鉄道×歌川派

江戸後期から幕末にかけて隆盛した歌川派。人々の嗜好や流行を追い続けた彼らに明治時代がもたらしたものは、散切り頭とステーション、洋服に陸蒸気など、目まぐるしく変わる東京でした。舶来の赤色を多用し、「赤絵」と呼ばれる華やかな開化絵を描いた三代広重、鉄道開業前にも関わらず、世相を伝える錦絵の役割を懸命に果たそうと、伝聞や外国の書物などから得た情報で実物とは大きく異なる機関車を描いた芳虎など、彼ら歌川派の作品を中心に、当時の人々の中でどれだけ鉄道が関心を惹いていたか探ります。

I-2 鉄道あれこれ

明治時代に描かれた浮世絵や石版画は、当時の鉄道がどのような受け止め方をされていたか探る上で貴重な資料となりますが、鉄道を物語るのは車両などを描いたものだけに限られません。岡田三郎助《野菊と薔薇》の画面には、一切鉄道が出て来ませんが、この作品は、1924年に摂政宮（後の昭和天皇）ご乗用として製造された12号御料車の御座所に展示されており、鉄道史を飾る逸品と言えるでしょう。

本展では、カンヴァスに描かれた鉄道だけでなく、図面に描かれた車両や鉄橋なども登場します。明治初期などに描かれた製図図面は、淡い色彩が施されることもあり、設計図本来の役割だけではなく、一つの作品にも見えてきます。また、透視図として描かれる図面は、内部の構造を理解した者のみに描くことのできるものであり、精緻な美しさすら感じられます。

その他、明治維新の翌年に、日本で初めて施設された新橋

一横浜間を結ぶ官営鉄道のレールや、昭和期の切符や改札鉢、制服や駅時刻表なども展示します。また本物と見紛うほど精巧なジオラマを1階、2階両会場にてお楽しみいただけます。



岡田三郎助《野菊と薔薇》鉄道博物館蔵

II 鉄道 画家たちのオマージュ

文明開化の象徴でもある蒸気機関車は、メディアとしての役割も担っていた浮世絵師たちにとって、絶好のモチーフとなり、数々の名作が生み出されました。しかし、それも今は昔、現代の画家たちは、車両の持つ重厚感や、駅舎に広がる出会いや別れの空気、故郷に繋がる線路が呼び起こす郷愁や憧憬など、各々が持つ鉄道への思いを描き続けています。第2章では、日本のゴッホと呼ばれた放浪の画家・長谷川利行をはじめ、様々な空間・時間を一つの画面に定着させ神秘的な画面を構築し2014年紫綬褒章を受章した遠藤彰子、リアリズムに郷愁を潜ませる木津文哉など、鉄道に魅せられた画家たちの作品をご覧ください。

遠藤彰子《投影》2009年 東京ステーションギャラリー蔵



Ⅲ 中井精也鉄道写真展 ゆる鉄紀行

僕の代表作である「ゆる鉄」は、決してゆるい品質の鉄道写真ではありません(笑)。ローカル線に乗っているときに感じる「ゆる～い空気感」や、鉄道だけが持つ「旅情」をテーマにした作品です。線路わきで出会った、ゆる～い風景や人と鉄道が織りなす、思わず笑顔になるような作品たちを、ぜひご覧ください。(中井精也)

中井精也(なかいせいや)略歴

1967年、東京生まれ。鉄道の車両だけにこだわらず、鉄道にかかわるすべてのものを被写体として独自の視点で鉄道を撮影し、「1日1鉄!」や「ゆる鉄」など新しい鉄道写真のジャンルを広げた。2004年春から毎日1枚必ず鉄道写真を撮影するブログ「1日1鉄!」を継続中。広告、雑誌写真の撮影のほか、講演やテレビ出演など幅広く活動。

株式会社フォートナカイ代表。著書・写真集に「デジタル一眼レフカメラと写真の教科書」「DREAM TRAIN」(インプレス・ジャパン)、「ゆる鉄」(クレオ)、「都電荒川線フォトさんぽ」(玄光社)などがある。社団法人日本写真家協会(JPS)会員、日本鉄道写真作家協会(JRPS)副会長。甘党。

©SEIYA NAKAI



■ 展覧会概要

展覧会名	常磐線東京駅乗り入れ記念 絵画と写真で巡る大鉄道展
会 期	2015年3月7日(土)～5月24日(日)
会 場	笠間日動美術館 企画展示館
開館時間	午前9時30分より午後5時(入館受付は4時30分まで)
休 館 日	毎週月曜日(但し5月4日は開館、7日は休館)
入 館 料	・大人1000円、65歳以上800円、大学・高校生700円、中学・小学生無料 ・春風萬里荘(北大路魯山人旧居)との共通券: 大人1,400円、65歳以上1,100円、大学・高校生900円、中学・小学生無料 ・割引:20名以上の団体は200円割引 障害者手帳をお持ちの方、その同伴者1名は半額割引
主 催	公益財団法人日動美術財団
共 催	東日本旅客鉄道株式会社水戸支社
特別協力	鉄道博物館／東京ステーションギャラリー／ソニー マーケティング株式会社／M&M color
後 援	茨城県／茨城県教育委員会／笠間市／笠間市教育委員会／NHK水戸放送局／茨城放送／茨城新聞社／朝日新聞社水戸総局／産経新聞水戸支局／東京新聞水戸支局／毎日新聞社水戸支局／読売新聞水戸支社

■会期中のイベント

- 鉄道写真家中井精也 講演会&サイン会
3月7日(土)、5月2日(土) パレット館 4F 各日 14:00~
- 鉄道写真家中井精也 乗車イベント(特別列車貸切:定員130名)
4月11日(土) 東京駅朝発→笠間駅着→笠間日動美術館鑑賞→東京駅夕方着予定
お問い合わせ:(株)ワールドファンツアーズ TEL 03-6205-5251 (担当 市村)
- 学芸員によるギャラリートーク 4月18日(土)、5月23日(土) 各日 14:00~
- 1日画家体験「アンリ・ルソー」3月14日(土) 10:00-15:00 (1時間の昼休憩を挟む)
- プチ・コンサート(各日 14:00~)
4月25日(土):「レイルユーフォニアム2本の響き」根本香織
5月3日(日・祝):「リコーダーで巡る 日本の歌・世界の歌」ゆるリコ・ファミリーオ
- 夢境庵茶会 4月11日(土) 10:00-16:00 春風萬里荘 茶室 席主:原田勝子(表千家)

■岸田劉生 お披露目会

会期 4月2日(木)-5月6日(水)

会場 フランス館

岸田劉生最大の紙本着色画を、
従来の劉生コレクションとあわせて展示します。
是非、ご観覧ください。

作品明細

「村嬢奉壽」紙本着色 168.5x84.1cm(右画像)

「拾得図」紙本着色 146.0x81.4cm



■交通案内

- [JR 利用] ●常磐線友部駅(9:50/10:50/11:50 発)より『かさま観光周遊バス』(100円)
または市内循環バスで約15分。「日動美術館入口」下車徒歩2分
- 水戸線笠間駅より徒歩約20分(日動美術館・春風萬里荘共、但し方向は逆)
『かさま観光周遊バス』またはレンタサイクルの利用が便利です。
- [自動車利用] ●常磐道友部 JCT 経由、北関東道友部 IC より国道 355 号線経由約 6 km
- 東北道栃木都賀 JCT 経由、北関東道笠間西 IC より国道 50 号線経由約 8 km

■お問い合わせ先(担当:森/亀山)

茨城県笠間市笠間 978-4 電話: 0296-72-2160 Fax:0296-72-5655

URL: <http://www.nichido-museum.or.jp> Mail: m-museum@nichido-museum.or.jp

本プレスリリースに掲載した画像のほか、油彩画、錦絵および中井精也氏の写真など、
多くの画像がございます。どうぞ、お問い合わせください。